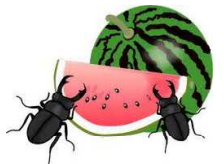


ぎふふくぐく

号外

岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会

発行 平成二十六年七月二十日



巻頭言

可茂大会に期待すること

岐阜県中学校国語科研究部会会長 小林 正徳

四年ぶりに県大会の年がやってきました。十月二十三日（金）に

一般的には、次の二つの理由があるように思われます。

可児市立中部中学校で開催される可茂大会です。各部会では指導案や提案についての検討会が行われ、当日に向けて着々と準備を進めていただいています。

ところで、この県小中学校教育研究会の県大会は、中国研に限らず、他教科・領域においても行われています。今年度で言えば、小学校教育をはじめ九部会で開催されます。では、各教科等の県大会は何のために行うのでしょうか。一

一つは、各教科等の国や県の課題を踏まえた研究実践を定期的に公表することにより、指導の方向性や具体を共有して個々の実践に生かすためです。今回の可茂大会で言えば、サブテーマの「言語能力の高まりを実感する言語活動の充実」をいかに図るか、とりわけ『単元を貫く言語活動』をどう設定し、具体的にどのような指導するかを明らかにすることです。学習指導要領では、「国語科におい

ては、言語活動を通して指導事項を指導する」（傍点は小林）となっており、そのためには『単元を貫く言語活動』の設定は不可欠であると考えます。その意味で、研究部から可茂大会に向けて『単元を貫く言語活動』を位置付けた指導案の様式が示されたことは重要なことです。実際、六月の岐阜市校外研（市教研）の五つの指導案は、全て可茂大会の様式に沿ったものであり、『単元を貫く言語活動』が位置付いた授業でした。

県大会を行うもう一つの理由は、ほとんどの教科等が各地区を持ち回りで開催していますが、このことにより主体的な研究実践とするためです。今回で言えば、授業者ではない可茂地区の先生が、先行して授業や実践を行って指導案検討に参加されています。こうした姿勢が授業者にとってどれほ

ど心強いのか、またこのこと各地区を持ち回って開催する大きな意義であると考えます。加えて、中国研は、伝統的に『組織で動く』強みをもっています。今回も、三領域一事項に分かれる授業者を可茂地区の二市二郡が分担して支え、県の各研究部と一体となって実践を進めています。この点は、他教科等には見られない動きであり、平成五年の全国大会以来、中国研が営々と築いてきた誇れる財産であると思っております。

最後に、引き続き会長職を仰せつかりました。県大会の意義を十分に感じ、県中国研の総力を挙げて今秋の可茂大会を成功させましよう。よろしくお願いいたします。



中国研県大会 可茂大会に向けて

中学校国語科研究部会 主務 富山 哲成

一 可茂大会の主旨

平成二十年三月に現在の学習指導要領が示されて以来、学校現場では「言語活動」ということが盛んに言われるようになりました。生徒の思考力・判断力・表現力の伸長をめざし、全教科に渡って多様な言語活動をとり入れる方針が示されたからです。

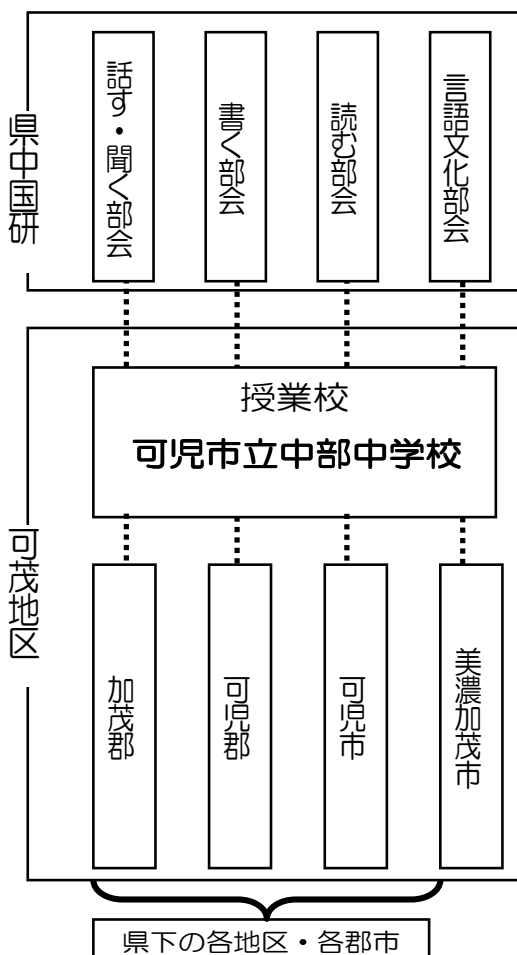
そしてそこでは、「国語科でそうした言語活動を学んでいる」ことが前提とされています。つまり、今、学校教育がめざす方向の中で、国語科はその屋台骨となる、重要な役割を担っているということです。

国語科は、言うまでもなく言語を学ぶ教科ですので、当然これまでも言語活動は授業において不可欠でした。しかし、前述のように「言語活動」が全教育活動の中で重要な位置付けとなった今、国語科においても改めてその在り方を見つめ直す

必要に迫られました。

そうして見直してみると、領域それぞれの言語活動の在り方から、「付けたい力」との整合性、生徒にとっての活動の必然性など、精査すべき点が多く見えてきました。そこで県中国研では、二二年度東濃大会以降、「言語能力の高まりを実感する言語活動の充実」をめざした研究に取り組み、授業実践を行ってきました。

本年度の可茂大会ではその成果として、「各領域での『言語活動』とはどうあるべきか」を中心に、学習指導要領に示された指導内容の具体や、指導の手立ての具体についてご提案できればと思っております。先生方が国語科の各教室で日々実践され、研究されていることと関わる部分も多いかと思しますので、是非多くの先生方にご参加いただきたいと思えます。



二 研究のあゆみ

「研究組織」

研究実践は、県中国研研究部と、可茂地区の国語科研究会とが連携して行ってきました。各領域の研究部と、可茂地区郡市の国語部会とを

右図のように結び、領域部会の研究テーマのもと、授業研究会や研修会を共に行い、協同で進めてきました。そうした研究を通して明らかに

してきたことを、可児市立中部中学校での公開授業、及び分科会での実践発表にて示していくこととなります。授業での実際の指導、その中の生徒の姿から、研究の成果を検証していきます。

「研究内容」

県中国研では、研究を通して明らかにしてきたことを「各現場で実際に活用できる」よう、その成果を「具体」にすることを大切にしてきました。

その一つとして、「明日に生きる言語能力を具体化する」の一覧表があります。これは、学習指導要領に示された指導内容を、授業で身に付けさせるべき知識・技能の具体として明確にしたものです。評価規準として具体化したとも言えるものですので、授業づくりの指針として活用されることを願っています。

また、各研究部の実践を通して開

【「読むこと」の具体化一覧表】

「明日に生きる言語能力」を具体化する —「読むこと」新学習指導要領版—

作成にあたって
 (1) 指導要領に示されたそれぞれの指導内容を、「知識」や「技能」として具体化し、その習得をめざすものとしてその知識や技能が身に付いたと判断できる具体的な姿を示すようにした。また、「自分の考えの形成」の項目については、その指導内容の性質から考え、他のカテゴリの内容を包括したものとした。
 (2) 指導要領の解説に基づいて各学年での指導事項をより明確にし、一覧の末尾に当該学年を付記した。

語句や意味の理解		
<第1学年> (7) 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。 <第2学年> (7) 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。 <第3学年> (7) 文脈の中における語句の効果的な使いかたなど、表現上の工夫に注意して読むこと。	1	文章を読む際に、意味の分からない語句があったとき、国語辞典で調べたことがある。
	2	語句の一般的な意味を知らずして、文脈上の具体的な個別的な意味を推して読んでいる。
	3	文中の語句について、ある場合とない場合とを比較して、その語句の用いられた効果を読み取っている。
	4	文中の語句や言い回しについて、他の語句や言い回しと比較して、その用いられた効果を読み取っている。
	5	筆者の主張を印象づけたり読者の意識を揺さぶったりしている語句に気づき、その効果を読み取っている。
	6	作者・筆者がどのような意図でその語句を用いたのか、読み取っている。
文章の解釈		
<第1学年> (4) 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 (5) 場面や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。	1	文章の中心的部分をとらえるために、キーワードやキーワードなど、文章中のポイントとなる言葉を見つけて出している。
	2	文末表現に着目して、事実と意見を読み分けている。
	3	意味段落の役割を理解し、文章の構成や展開を正確にとらえるために、接続詞に着目したり、段落相互の関係を押さえたりして読んでいる。
	4	要約文を、全体の文数の1/5以内で話したり、書いたりしている。

発してきた「言語活動」も、学年や教材ごとに一覧にまとめ、「言語活動の一覧表」に集約してきました。まだ内容を精査する余地は大いにあると思いますが、一つの形として示せたのではないかと思います。

三 当日について

〔期日〕

平成二六年一〇月二三日（木）

〔日程・内容〕

可児市ゆとりピアホール

一三：〇〇 全体会(研究総括提案)

一三：四〇 移動

一四：〇〇 公開授業

可児市立中部中学校

一四：〇〇 公開授業

言語文化	読むこと	書くこと	話すこと・聞くこと
梅田 佳宏 教諭	今光 正和 教諭	桂川 円 教諭	桑下 正之 教諭
「いにしえの心を訪ねる」 二年八組	「星の花が降るころに」 一年四組	「盆土産」 二年六組	「学校のよさを伝えよう」 三年七組
			福住 恵子 教諭
			木下 静樹 教諭
			「話の構成を工夫しよう」 一年六組
			「課題解決に向けて話し合おう」 三年四組

一五：〇〇 分科会
 (研究部会、可茂地区郡市実践発表、公開意見交流)
 一六：一五 指導

県内全中学校に、案内を送付いたしました。参加申込書も付してあります。多くの先生の申し込みをお待ちしております。

四 その他の研修活動について

□ 若手教員対象の2学期の授業実践につながる国語授業研修会

〔期日〕 八月五日（火）午後
 〔会場〕 岐阜市立長良中学校

昨年度、県内の二十代若手国語科教員を対象として、日ごろの授業実践における悩みを交流したり、領域の指導に関して学び合ったりする研修会を開催したところ、非常に好評をいただきました。昨今の事情により、校内に先輩の先生がいらっしやらなかつたり、中には国語科が一人だったりする学校もありま

す。また、そうでなくても「もっと国語の授業について学び、研鑽したい」という意欲をもたれている若手

の先生は多くいらっしゃいます。そうした熱意ある若い先生の力に少しでもなればと、本年度もこの「若手の会」を開催いたします。

各校に案内及び参加申込書が届いています。積極的な参加をお待ちしています。

□ ぎふこくご 実践論文募集
 本年度も、各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広め、学び合うことを目的として「ぎふこくご」実践論文募集事業を行います。各市郡の代議員の先生から、各校に要項が配付されていることと思

います。国語科の今日的課題をふまえた提案性のあるご実践、生徒の実態に即した工夫あるご実践等、先生方の熱意ある授業実践をお待ちしております。よろしくお願ひします。

□ Web ねふくべり

県中国研のホームページです。ここに載せた内容を始め、授業に活用できるコンテンツも多く掲載しています。是非ご活用ください。

岐阜県中国研会員の皆様へ

研究総括 山口 政有

【平成二十六年年度中国研 研究主題】

明日に生きる言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

一 はじめに

今年度は、「第二十一回岐阜県中学校国語科研究会可茂大会」が十月二十三日（木）に開催されます。本年度の研究における位置付けは次のように考えています。

可茂大会の発表を通して、

岐阜県の国語を

みんなで考える一年

昨年度から実践を重ねてきている研究テーマに向け、本年度も引き続き取り組み、可茂大会において、その成果を明らかにしていきたいと考えています。

また、昨年度より、可茂大会に向けた研究副主題を「言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して」

て」と位置付け、実践を重ねてきています。この副主題となっている「言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して」という言葉に関する用語の内容を共通理解し、みんなで国語の学習を創り上げていきたいと考えています。

二 今年度の研究主題

今年度の研究主題は、昨年度までに引き続き、次のような研究主題・研究副主題で可茂大会に向かっていきます。

【平成二十六年年度中国研 研究主題】

明日に生きる言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「明日に生きる言語能力の育成」

とは、表現力と理解力の両面を身に付けた生徒が、社会生活などの多様な場面や状況に応じて、その力を生かし、適切に表現したり、正確に理解したりする力を高めることであると考えています。

三 研究副主題について

各研究部会の考える

言語能力の高まり

話す・聞く↓目的や場面に応じて話す力・聞く力・話し合う力の高まり

書く↓相手や目的に応じて適切に書く力の高まり

読む↓主体的かつ的確に読む力の高まり

言語↓言語文化に親しみ、豊かに運用する力の高まり

「言語能力の高まり」とは、それぞれの領域において、右のような力の高まりであると捉えています。先ほども述べたように、研究主題である「明日に生きる言語能力の育成」とは、表現力と理解力の両面を身に付けた生徒が、社会生活などの多様な場面や状況に応じて、その力を生かし、適切に表現したり、正確に理

解したりする力を高めることであると考えています。その力をより詳細にとらえるためには、3領域1言語事項に関わって、何を高めるのか明確にしておきたいと考え、このように定義しました。

四 言語活動の充実」とは何か

岐阜県中国研の考える言語活動

付けたい力を明確にした、

単元を貫く言語活動

今回の学習指導要領の改訂で最も重視されたことの一つに、「国語科指導においては、言語活動を通して指導事項を確実に身に付けさせる」ことが挙げられています。

しかし、一言に「言語活動」と言っても、なかなか明確にとらえることができません。そこで、岐阜県中国研として、この「言語活動」についてのとらえを明確にしました。

岐阜県中国研でとらえている言語活動とは「目的、課題解決的に言語を使って、単元を貫いて学習していくことのできる活動」だにとらえ

ています。このように単元を構想すれば、生徒は学習に対しての目的を持ち、主体的に学習を進めていくことができると考えています。中国研では、この「付けた力を明確にした、単元を貫く言語活動」を充実させることこそが、今の国語科で求められているものであると考えています。

五 単元を貫くという意味

現在、言語活動について、書くこととの指導でいえば、取材時にメモすることの位置付け、構成でのワークシートへの記入、話合いの位置付けなどが言語活動だと考えられていることがあります。また、これらの工夫をすることが言語活動の充実だと考えられていることもあります。

しかし、これらは今求められている言語活動ではありません。

岐阜県中国研で考えている言語活動は、「付けた力を明確にした、単元を貫く言語活動」だと捉えています。この「単元を貫く」とは、「単元の初めから終わりまで一貫して学習を進めていける活動」ということ

を意味しています。学習のゴールを生徒と共有し、その活動に対する課題解決的な学習を積み重ね、その上で、付けた力が付いたかどうかを評価するといった「単元の初めから終わりまで一貫して学習を進めていける活動」すなわち、「単元を貫く言語活動」を位置付けた指導を行うという考え方です。

例えば、一年生の書くことの単元「分かりやすく説明しよう」において、単元を貫く言語活動を「私のお気に入りの場所を友達に紹介しよう」と設定したとします。その場合、「取材」「情報整理」「構成」「記述」「推敲」「交流」までの一連の学習活動を全て「私のお気に入りの場所を友達に紹介する」という立場（観点）で行うこととなります。このことにより、一貫した考えのもとで目的、課題解決的な学習を行い、生徒の学習意欲を喚起するとともに、その単元における指導事項の重点化、つまり付けた力を明確にするこ

六 今年度の研究の方向

本年度、可茂大会へ向けた研究内容を次のように考え、研究を実践します。

【指導計画の工夫】

- ・「明日に生きる言語能力の具体化一覧表」を位置付けた年間(単元)指導計画の作成

- ・中学校三年間で身に付けさせたい言語能力を網羅した「明日に生きる言語能力の具体化一覧表」の改訂

↓「明日に生きる言語能力の具体化一覧表」「単元指導計画」をそれぞれの研究部会で見直し、可茂大会の研究紀要にまとめ

【指導方法の工夫】

- ・「明日に生きる言語能力の具体化一覧表」の活用と言語活動の工夫
- ・岐阜県ならではの地域教材・新しい単元の指導の開発
- ・指導方法の明確な指導案の書き方の提案

- ・可茂大会での指導をもとに、県内に中国研が示す指導案の書き方を提案していく。

↓それぞれの研究部において、中心教材に対して、どのような言語活動を位置付けて取り組むことができるのか、実践を集め、一覧表にしたものを、可茂大会の研究紀要にまとめしていく。

- ・言語活動を位置付けた単元の指導を行う際に、岐阜県ならではの地域教材や新しい単元の指導の開発にも挑戦し、その実践を集めていく。

七 その他

本年度の可茂大会では、岐阜県中国研としての研究主題や副主題について、また、「単元を貫く言語活動」についての定義や位置付け方などを明らかにしていきます。

是非、県内すべての国語教師の皆さまに参観いただき、理念や方向性などを共通理解していけたらと考えています。よろしくお願ひします。

平成二十六年年度 中国研代議員名簿

1	岐阜市	丹下 侑輝	岐阜大学附属中学校
2	羽島市	木下 慎一朗	羽島市立中央中学校
3	各務原市	佐藤 之泰	各務原市立稻羽中学校
4	山県市	深尾 寛	山県市立高富中学校
5	瑞穂市	井上 直子	瑞穂市立粟南中学校
6	本巣市	加藤 喜浩	本巣市立根尾中学校
7	羽島郡	澤田 さつき	羽島郡笠松町立笠松中学校
8	本巣郡	後藤 靖治	本巣郡北方町立北方中学校
9	大垣市	山内 千佳子	大垣市立西中学校
10	海津市	側島 逸男	海津市立南濃中学校
11	養老郡	北川 賢誠	養老郡立高田中学校
12	不破郡	疋田 理恵	不破郡関ヶ原町立関ヶ原中学校
13	安八郡	佐々木 優	大垣市安八郡安八町組合立東安中学校
14	揖斐郡	宗宮 一夫	揖斐郡揖斐川町立揖斐川中学校
15	関市	野村 華代子	関市立下有知中学校
16	美濃市	中田 哲朗	美濃市立美濃中学校
17	郡上市	上村 一貴	郡上市立八幡中学校
18	美濃加茂市	森高 紘介	美濃加茂市立東中学校
19	可児市	古野 寿	可児市立東可児中学校
20	加茂郡	金子 紀之	加茂郡東白川村立東白川中学校
21	可児郡	三根 之り沙	可児郡御嵩町立向陽中学校
22	多治見市	林 孝子	多治見市立笠原中学校
23	土岐市	加納 玲子	土岐市立西陵中学校
24	瑞浪市	山口 政有	瑞浪市立瑞陵中学校
25	恵那市	郷田 賢	恵那市立恵那西中学校
26	中津川市	太田 慎哉	中津川市立神坂中学校
27	高山市	高橋 友之	高山市立日枝中学校
28	飛騨市	垣内 宏大	飛騨市立神岡中学校
29	下呂市	上條 亘	下呂市立萩原中学校
30	大野郡	新井 良太	大野郡白川村立白川中学校

平成二十六年年度 中国研本部役員名簿

会長 小林 正徳 岐阜市立加納中学校

副会長(岐阜) 加藤 勝祥 各務原市立那加中学校

副会長(西濃) 宮島 康広 大垣市立興文中学校

副会長(美濃) 山田 照義 郡上市立八幡西中学校

副会長(可茂) 二村 一洋 可児市立中部中学校

副会長(東濃) 野田 守彦 土岐市立濃南中学校

副会長(飛驒) 山本 茂 高山市立宮中学校

可茂大会実行委員長 大野 裕司 美濃加茂市立西中学校

全国大会準備委員長 安田 英士 岐南町立岐南中学校

評議員 藤根 隆 関市立緑ヶ丘中学校

会計監査 遠山 健二 岐阜大学教育学部附属中学校

会計監査 村田 伊津子 岐阜市立三輪中学校

主務者 富山 哲成 岐阜市立長良中学校

会計部長 清水 裕樹 岐阜市立青山中学校

総務部長 長谷川 圭奈 岐阜市立境川中学校

総務副部長 吉永 康昭 岐阜市立東長良中学校

総務副部長 山本 学 可児市立中部中学校

広報部長 小島 光太郎 岐阜大学教育学部附属中学校

情報部長 岸 浩道 岐阜市立梅林中学校

編集部長 水野 寛大 岐阜市立加納中学校

研究総括 山口 政有 瑞浪市立瑞陵中学校

研究副総括 細江 隆一 美濃加茂市立西中学校

研究副総括 西門 純 岐阜市立加納中学校

話す聞くこと部会部長 塚本 陽治 岐阜市立陽南中学校

書くこと部会部長 今井 則雄 岐阜市立青山中学校

読むこと部会部長 上村 光一 郡上市立大和中学校

言語文化部会部長 内田 誠司 本巣市立真正中学校

平成二十六年年度研究部員名簿

話す・聞くこと部会 部長

塚本陽治
篠田陽子

読むこと部会

部長

上村光一
辻 美里

可児愛由未

岐阜市立陽南中学校

間宮純子

八百津町立八百津中学校

堀田佳代

坂祝町立坂祝中学校

森四十巳

坂祝町立坂祝中学校

橋本奈美

川辺町立川辺中学校

廣瀬賢人

川辺町立川辺中学校

今瀬咲恵

七宗町立上麻生中学校

嶋崎博一

七宗町立神淵中学校

村瀬友美

八百津町立八百津中学校

田口広志

八百津町立八百津東部中学校

森菜々子

白川町立白川中学校

渥美僚之

白川町立黒川中学校

額綱真弓

白川町立佐見中学校

金子紀之

東白川村立東白川中学校

松嶋杏奈

岐阜市立東長良中学校

大平朋美

各務原市立蘇原中学校

加納玲子

土岐市立西陵中学校

杉山貴紀

土岐市立西陵中学校

梶屋明広

中津川市立第一中学校

片山博寿

大垣市立西部中学校

荒井貴行

高山市立日枝中学校

今井則雄

岐阜市立立青山中学校

京谷貴幸

岐阜市立岐北中学校

水野寛大

岐阜市立加納中学校

竹智大裕

関市立小金田中学校

熊崎裕子

土岐市立泉中学校

今井康之

高山市立日枝中学校

高橋友之

高山市立日枝中学校

細江隆一

美濃加茂市立西中学校

高井梨絵

各務原市立中央中学校

清水裕樹

岐阜市立立青山中学校

言語文化部会

部長

内田誠司
一川宗弘

深尾寛
吉永康昭

河合のぞみ
茅壁ちひろ

伊藤瞳
熊崎智文

杉尾大輔
森高鉦介

本巣市立真正中学校

岐阜市立立青山中学校

山県市立高富中学校

岐阜市立東長良中学校

各務原市立那加中学校

岐阜市立岐北中学校

多治見市立南ヶ丘中学校

下呂市立下呂中学校

岐阜市立清流中学校

美濃加茂市立東中学校

郡上市立大和中学校

岐阜市立東長良中学校

岐阜市立島中学校

岐阜市立陽南中学校

岐阜市立加納中学校

岐阜市立境川中学校

各務原市立緑陽中学校

各務原市立鶴沼中学校

羽島市立中央中学校

大垣市立北中学校

垂井町立不破中学校

養老町立養老東部中学校

大垣市立東中学校

御嵩町立向陽中学校

飛騨市立古川中学校

可児市立中部中学校

可児市立中部中学校

可児市立中部中学校